

2020.1



新年のご挨拶

新年あけましておめでとございます。

本年、公益社団法人高知青年会議所第68代理事長をお預かりします、山本悠童と申します。

今年一年、青年経済人らしく、自由闊達に議論を交わし、様々な事業の展開ができる体制を構築できるよう、理事長として先陣を切って全力で取り組んで参ります。

私達青年会議所に集う者は、高知の社会問題や課題について皆で探求、追求をし、社会を良くする為、常日頃から修練、奉仕、友情の三信条の下、

明るい豊かな社会の実現に向けて活動を展開しております。その礎には、青年会議所の諸先輩方が社会に変化を起こすべく真摯に課題へ向き合っており、青年会議所の信頼を積み上げてこられた長き歴史があります。それにより行政、市民、他団体の皆様方からも信頼できる団体として我々も活動をさせていただけるといふことへの感謝を胸に、

今後さらさら必要とされる団体として発展させられるよう、私なりに地域を巻き込んでいく所存でございます。

地方の人口が著しく減少し、当会議所の会員数も減少傾向にありますが、時代に

応じて変化を楽しみ、自らも積極的に変化して参ります。厳しい高知の社会情勢が待ち受けている中、このような時代でも

私たちの未来は、私たちの今日の行動から作られていきます。私達青年は、常に全力で前進するのみです。

末筆になりますが、2020年度も引き続きご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人高知青年会議所
第68代理事長 山本 悠童

特集

会員メンバーお仕事
突撃インタビュー!!

vol.1

このコーナーでは、会員のお仕事
中の様子を紹介・レポートして
いきますよ♪



公益社団法人高知青年会議所
第68代 理事長
(株)一や
代表取締役副社長 山本 悠童

◆日本青年会議所の定款にビジネスの機会が明記された事についてどう
思われていますか？

今までのJCでは、公益事業を実施する上で、ビジネスの機会や営利目的などといった事は目的に反しているようなイメージでした。昨年、鎌田会頭がビジネスを推奨するという方針を示し、まだ会員の中でも解釈やそれぞれ考え方に違いはありますが本年度は当会議所の中でも、積極的にビジネスの機会を得るような体制をつくっていきたくと思っています。皆、汗をかいてJC活動や様々な事業をしていく中で「頑張っているな、応援してあげたいな」という思いが生まれ、ご縁を感じ、それが自分の仕事に繋がって波及していけば、どんどん良い循環になり、より「明るい豊かな社会」になるのではないかと考えています。

◆ビジネスが主体でない団体であったからこそ「明るい豊かな社会」の実現
へ進むことが出来たのでは？と思いますが、その辺りはどう捉えていますか？

今、時代が変化し会員数も減少してきています。私も今までの青年会議所としての在り方とビジネスとは切り離すという中で活動してきました。JCと他団体との違いは、公益事業が多く「明るい豊かな社会の実現」を果すことを目的としている所です。しかし所属している会員がしんどいだけで自らのビジネスに繋がらなくなると、経済的にもJC活動を継続していくことが出来なくなって団体としても衰退していき...それが今の現状を表しているのではないのでしょうか。日本青年会議所も、会員数の減少を危惧して定款を変更しました。古き良き物も残しつつ時代に合わせた方向展開は必要だと思っています。

Junior Chamber
International Kochi
2020 team

和田 信治
堀田 朋男
壬生 俊輔
渡辺 麻衣
武田 真幸
岡内 真典
尾崎 鈴
川 亮
久保 優子
野田 晶司
松岡 祐司
山本 俊之

新年のご挨拶

Happy New Year

CONTENTS

- ◆新年のご挨拶
- ◆後期新入会員事業「聴きゆう?知っちゆう?子どものキモチ」
- ◆第9回 高知21世紀クラブ
- ◆12月度定時総会並びに卒業式・大懇親会
- ◆薩長土肥の会 in 佐賀

公益社団法人 高知青年会議所
高知県高知市本町2-1-15安藤ビル3F
TEL.088-875-7109 FAX.088-824-0648

高知JC公式HPがリニューアルしました!

高知JC

検索

<https://www.kochi-jc.or.jp>





後期新入会員事業「聴きゆう?知っちゆう?子どものキモチ」

12月1日@高知市文化プラザかるぼーと

12月1日(日)高知市文化プラザかるぼーとにて高知青年会議所2019年度後期新入会員事業「聴きゆう?知っちゆう?子どものキモチ」が開催されました。この事業は高知市在住の小学校1年生～3年生とその保護者を対象に行われました。大切だと思ながら仕事や家事が忙しくてなかなか取ることができない子供との時間。そんなコミュニケーション不足の不安を解消し両親の子供に対する理解を深めてもらうために、今回の事業では米国NLP協会認定コーチの森本祥子さんと森尚美さんを講師にお招きしてセミナーを開催しました。

セミナーの中で「耳を傾けて熱心に話を聞く傾聴は現代の両親には難しい。でも一日一回でもいいので子供の話しかけてきたタイミングで耳を傾けてみてほしい。子供の気持ちに共感することが大切」という森本先生の言葉が印象に残っています。

セミナーの後はミニゲーム大会。「キモチゲーム」、「絵しりとり」、「切り抜きゲーム」といった後期新入会員が趣向を凝らした3つのゲームを通じて、参加した親子はお互いのことを理解しているつもりだったが意外と知らないことも多いな、と思いついたのではないのでしょうか。

参加いただいた親子が、この事業をきっかけにお互いのことをもっと知ろうと思ってくれることを願っています。

また5か月という短い期間で高知の問題を真剣に考え、解決する方法を探していった後期新入会員にとっても、事業に参加した親子以上に得るものがあつたのではないのでしょうか。



第9回高知21世紀クラブ

12月10日 @ 城西館

12月10日(火)に、城西館にて第9回高知21世紀クラブが開催されました。21世紀クラブは主催団体である高知銀行、四国銀行、高知新聞社グループの幹部と、高知県知事をはじめ来賓の方々、高知JCシニア、高知JC現役の役員・理事との交流の場として毎年一回開催されております。

本会は、高知の政財界の重鎮の皆様と懇談できる貴重な場であり、濱田高知県知事・吉岡高知市副市長からもご祝辞をいただき、また、高知の経済を担う先輩経営者の方々から激励のお言葉をいただきました。

我々もこれからの経営者世代として、より良い高知の実現を目指すものとして先輩方と貴重なお話を時間の許す限りさせていただきました。高知JCからは本年度理事長の三谷哲生君と次年度理事長予定者の山本悠童君より挨拶をさせていただきました。

三谷理事長からは、活動の総括をさせていただき、青年会議所メンバーが一丸となれば出来ないことはないという可能性を感じた一年であったと述べました。山本次年度理事長は、来年度のスローガンである「響縁～地域社会との協力 仲間との競力～」の紹介をし、素晴らしき国日本に生まれたことに感謝して、地域に変化を与えられるような活動を目指すことを宣言いたしました。

「明るい豊かな高知の実現」に向けて2020年度もどんな大きな壁にも挑戦し、高知のリーダーとして責任を持って邁進してまいります。



12月度定時総会並びに卒業式・大懇親会

12月18日@ザ・クラウンパレス新阪急高知

12月18日(水)ザ・クラウンパレス新阪急高知にて本年度の締めくくりとなる2つの事業が本年も開催されました。総会では、本次年度からの事業や計画の報告が行われました。2019年度の高知JCは三谷哲生理事長が掲げる『堅忍不拔』のスローガンを実現すべく事業を展開して参りましたが、いよいよフィナーレが近づいてきました。

卒業式では、14名の昭和54年生まれメンバーが多くのシニア、現役会員に見送られました。卒業生代表では、高橋卓也君からJCへの想いがあふれる答辞を頂きました。JC歴の長さは各自あれど、一人ひとりが高知青年会議所活動を振り返ると共に、これからの現役会員に託した思いも感じとれ、卒業生の思いをしっかりと引き継いでいきたいと、熱い想いになりました。その後の大懇親会では、和太鼓チーム、土佐一響館「龍」の皆様より、今年10月の第14回土佐一響館和太鼓コンクールにおいて、少年の部・最優秀賞、更に大人も含めた全体の最高賞である「コンクール大賞」を見事に受賞した「飛龍」と担ぎ太鼓を使った新曲「勢(せい)」という曲を力強く演奏していただき、その後、卒業生と共に「土佐若衆(とさのわかいし)」の曲が披露されました。

現役と卒業生によるエール交換と宮地貴嗣先輩による一本締めで締めくくられました。笑い涙が入り乱れ、卒業生の新たな一歩を踏み出す門出を祝うと共に、1年の締めくりにふさわしい卒業式と懇親会となりました。



薩長土肥の会in佐賀

12月21日@佐賀

12月21日、今年は佐賀の地で薩長土肥の会を開催いたしました。この会は幕末の時代に明治維新を推進した薩摩、長州、土佐、肥前の四藩に所縁のある四つの青年会議所が集う会です。

毎年四つの青年会議所(薩摩:公益社団法人 鹿児島青年会議所/長州:一般社団法人 萩青年会議所/土佐:公益社団法人 高知青年会議所/肥前:一般社団法人 佐賀青年会議所)が持ち回りで開催しており、今年は肥前藩!ということで、佐賀JCの設会で開催いただきました。各青年会議所理事長による今年一年後活動報告を互いにさせていただいた後、出陣を控えた次年度理事長の決意表明を致しました。懇親会では杯を酌み交わして薩長土肥の絆をより深めることができました。

